

私が考える英語の基礎学力

山田昇司

1. 不一致は「保留」にすること

これまでの基礎学力ワーキンググループの議論の中で「最低限学ぶシラバスを作成するのが良い」という意見が出され(2014/10/24)、それをふまえて、英語における「ミニマム・リクワイアメント」の具体例として「8 文から成る会話・10 個の英文・12 個の単語」が提示されています(2014/9/10)。

しかし、ここで提示されている具体例は私の考えるものとは異なります。私は英語が日常生活で使われない環境、つまり英語が外国語として学ばれている EFL(English as a Foreign Language)という言語環境の日本においては、一定の決められた語彙や英文を定量的に記憶すべき「基礎学力」として設定することにはあまり意味がないと考えているからです。[もちろん自分が教材に採用した英文において一定の語彙や英文を覚えるのであればそれなりに意味があると思いますが。]

意見が一致しないものは現時点では「保留」にして、各担当者が自分の一番よいと信じる教材と教授法で教えることを提案します。そうすることが教師の力を最大限に引き出し、教室に活気を生み学生のやる気を引き出すことにつながると思います。

2. 「使わないので忘れるもの」を基礎学力とすること

以下に論じることは、本来はまず英語科内で議論すべきことですが、科外でも英語教育に関心を持っている方がおられると思いますので、あえてここで私見を述べます。

私が共通の語彙や英文をすべての学習者が学ぶべき「ミニマム・リクワイアメント」とすることに同意できない理由は、仮にそれを覚えたとしても使う機会がないと忘れてしまうからです。テストのときには書いても使わなければ記憶から消えることは、英単語のときだけに起こるわけではありません。日本語でも起きています。

例えば、私はかなり以前から漢字が書けなくなっています。家でちょっとしたメモをするときも思い出せずにひらがなで書くことがあります。これはワープロやパソコンで文書を書くようになったからです。授業でフレーズ訳を板書しているときにも冷や汗をかくことがあります。先日も米国の学校におけるファストフードについて書かれた英文を授業で読んでいたときに「稼ぐ」「儲ける」が思い出せませんでした。私はさりげなく自分が作ったプリントの語義欄からその漢字を見つけて窮地を逃れましたが、これでは経営学部の学生を教える資格はないなとおおいに反省しました。

3. 学習者に必要な語彙は後から決まる

しかし私は、語彙を覚えることが英語学習に必要なとは言っていないのでは決してありません。英語を使うには一定の語彙力は必要です。しかしそれは学習者の興味や関心、あるいは将来に就く仕事によってそれぞれ異なるのです。そのような状況では英単語は繰り返し出て来ますので、仕事で使ううちに記憶に定着して自分のものとなります。つまり必要な語彙は学習者によって異なり、しかもそれは後で決まることが多いのです。

身内の話で恐縮ですが、私の義父の例を挙げます。現在 85 歳で現役を引退してからず

いぶん経ちますが、戦後日本の経済成長を支えた企業戦士のひとりです。義父は戦争中に中学で英語を学びましたが、途中から敵性語ということで授業はなくなりました。「I am a boy."ぐらいは習った」と言っていました。高校卒業後は岐阜市内の染料の会社に勤め、同時に夜間大学にも通って卒業しましたが、仕事に必要な英単語はほぼ独学で覚えました。

あるとき会社に海外の会社から電話がかかってきました。義父はそのときの状況から電話が発注した商品が船積みされたのかどうかを確認する件だと分かりました。商品名だけは聞き取れたのだと思います。義父はその商品がすでに倉庫から出たことを把握していたので"Yesterday on ship"と答えたそうです。これは、仕事に精通して現況をきちんと把握していれば必要最小限の英語でも十分に役立つことを示す例ではないかと思います。

こんな例もあります。自分の仕事に必要な英語さえ知っていればノーベル賞すら取れるという例です。有名な話なのでご存じの方も多いと思いますが、2008年に物理学賞を受賞した益川敏英さんは授賞式で最初に「I'm sorry, I can't speak English.」とだけ英語で言って会場の笑いを誘い、あとは通訳付きの日本語で講演を行った(Wikipedia)ことで知られています。しかし益川さんは専門分野の語彙には精通していて英語の論文は読むことができます。あるインタビューで次のように語っています。

こんな僕でも、実は英語を読めます。「読む」の一技能です。だって興味のある英文は、自分で読むより仕方がない。いちいち誰かに訳してもらえませんか。

ただし、いんちきをします。漢字がわかる日本人なら漢文が読めるのと同じです。物理の世界だったら基本的な単語は知っていますから、あとは文法を調整すればわかる。行間まで読めます。小説だとチンプンカンプンですが。(2014/11/26 朝日新聞)

このことと関連して最近の文科省の方針について述べますと、「英語の授業だけでなく全ての教養科目も英語で教える」ということは全ての分野の単語を覚えよ、と言っているのと同じです。こんなことができるはずはありません。また、日本語を使って説明してもなかなか理解できないことを英語で説明したら、いったいどうなるのでしょうか。

4. 英語にとっての基礎学力は「語順」の修得

話が少し横道にそれましたので、本題に戻しますと、それではいったい何を「基礎学力」として教えるべきなのでしょう。先にあげた益川さんの言葉を引いて言うならば「漢文が読める」文法、つまり、漢文ならば中国語の語順を教えるということです。漢字を「調整」する法則を学ぶのです。

英語にあてはめて言うならば、英語の語順（名詞＋動詞＋名詞）を学び、それを使って英単語を「調整」する、すなわち日本語に並べ替える力をつけることです。それが私の考える「基礎学力」になります。音声に関して言えば強弱のリズムになるのですが、この英語の水源地ともいうべき根幹を教えることを意識した授業づくりをすると学習者の反応は大きく変わります。

このような考え方とそれに基づく授業実践は寺島隆吉氏（元・岐阜大学教授）が奥様の寺島美紀子氏（本学教授）とともに確立されたものですが、私はこれに出会ってからはこの仮説の有効性を検証するためにずっと追試を積み重ねてきました。高校で教えた28年間の記録を『授業は発見だ』（2005 あすなろ社）にまとめ、大学での8年間の記録は『英語教育が甦えるとき』（2014 明石書店）に収めています。この報告では私の最新の授業の様子を2014年度後期に書かれた学生の作文を引用して紹介します。

口取も学力の低いままの一人だが、一番大切なことを掴んでいる。

1 語順の穴埋めの授業が学んできたことは、英文にも決まりがあるということ。まだ正しくは理解できていませんが、最初にくらべるとだいぶ英文の語順について、分かるようになってきていると思います。また英文を日本語に訳す時も、文法の決まりにしがたがって、並びかえることができれば英文も日本語に訳すことが楽にできるということを学びました。リズム読みでは、英文を読む用、強く発音する単語と、そうでない単語が、あるということも学びました。最初の方はなかなか早く読めなかったが、授業で少しづつ読むたびに、少しづつプラスで読めるようになってきています。ミニ作文の授業のあたりからようやく、英文がわかるようになってきたので、これからもう少し、まじめに取りしんじていきたいです。

経営 1年 男

1 この単語の授業を受けて、自分は中学校のときから単語からして単語がきつてきて、スグ上、自分からやる気を出してやることにした。高校の時もそうだった。そのとき大学に来てからは環境がかわっていき、先生の単語を覚えたり、来欠の作りを買ったりして、今までに無い授業方法をしようとした。自分から単語にやる気がきくように、授業で、でも、やっぱり最初はきつていて、自分からやる気がきくようになった。一つは、自分から自分を取り返す物を作してやること、それから、穴埋めとか、先生の出す問題に、考えたりして解けるような問題を作ったりして、やり印をつけている問題で、それと単語を覚えたりして、自分からやる気を出して、単語を覚えることは、自分の単語の作り方をしたいです。

単語を覚えることから解放されるとやる気が出てくる。

経営 1年 男

2 種類のリズム読みグループは、何度も読んでいくことで読むスピードが上がるようにした。繰り返すことの大切さを気付かせてもらった。語順記のプリントでは、基本的なことを教えてもらって、少し簡単にやった。前までは読むことも見れなかったが、それができるようになった。これは来欠も見ることができ、それが動詞の形だとうつと勝手に見ている自分だった。物語の読解プリントでは、訳が書いていたため、自分と比べて、物語の内容もイメージできてきた。映像視聴では、物語の読解が、自分と比べて、内容がわかるようになった。リズム読みでは、強く読むところは、音で打つこと、とてもわかりやすかった。家に帰って見たこともありました。

英文を読むときのポイントを見事にとらえている。

法 1年 男

主

2 授業で日本語に記号をつけることで、全く違う言語に見えていた日本語と英語がそれぞれの本質の言語の役割は同じなことで分かることで、並み替えがしやすくなりました。役割の同じ単語でも日本語と英語の語順がちがうことでそれぞれ大切にしている言語の特徴が分かってきました。例えば日本語は述語を最後にまってくるけど英語は述語のすい後子にも、くるるところで日本語は最後まで言いきるのに相手の表情を見ながら調整することができるけど英語は自分の意思を最初に言うので言葉を覚えることが難しいことが考えられ、日本語は相手の気持ちも大切に言語で英語は自分の意思を大切に言語なので、違いが感じました。

経営1年 女子

こんな言語文化の考察をすすめる生も出てくる。

中・高の英語の授業では、レベルが低くあからぬい文法を教えるが、この授業ではセンとマルで口を使っ、この内かノヤ可く説明してんた。基本的には日本の文法はセンとマルというふうになるが、これ英語に変わるとセンとマルセンというふうになる。また、名詞を説明することばを口でくる。この場合も日本語の場合には口かきて名詞という順番で英語にならぬと名詞の順番に変わる。そして英語は日本語と違い、いちいち主語が必要なので、IとWeとかをつけてくる場合もある。これらふたつを組み合わせると日本語から英語に訳せることがわかって、英語は単語や文法を覚えることも大事だけれど、その重要なのは文章のなりかたを知ることだ。それを見聞すると、文法の意味の文になるし、意味がしこたもある。そして、単語などは何、たノ調子で下ノ可るうちに覚えられた。なのでこの授業で字ん下センとマルと口を適用してこれから、~~センとマル~~としよう。

説明(日本語) 私は次のように役割を担っている
 セン→セン→マル の順
 英語 I have the following roles
 セン→マル→セン の順

説明 [これの先の]世界
 () → 名詞

説明 The world [from now on]
 名詞 → []

私はこの授業を前期から受講しているが、この授業に出るとほんとに良が、下で思っている。それは私は公務員試験を受けようと思、しているからだ。そのために、ここで習ったことを十分に利用して、試験にのみみたしと思う。英語が苦手な後輩たちのために、これから、センとマルと口を使った、あノリヤ可い英文法を教えていってほしいと思う。そして、少しは英語の苦手意識を、下人が減る人にもいいかと思う。

法2年 男子

英文のしくみが分かったことで公務員試験に挑戦する意欲が生まれている。

英語の文章は複雑に見えますが、そうではありません。私は今まで日本語の文章から英語の文章に書き換えるとき、どういう語(述)で書いていいのか分かりませんでした。が、文章の中で線・丸・線を引けることができたから簡単に並べ換えができるようになりました。その線・丸・線というのは、主語・目的語などが主に線の部分にあたり、動詞が丸の部分にあたります。例えば、"私は学生です"という文があります。この時線の部分は"私"と"学生"であり、丸の部分は"です"となります。これを英文の並べ換えに書き換えると"私・です・学生"となります。つまり、日本文では線・線・丸と書かれているのを英文にする時には線・丸・線と並べ換えるだけではないのです。この例に出した文章をもう一度わかりやすく英文に直すと、"私は学生(です)" (線・線・丸) → "私(です)学生" (線・丸・線) → "I am student." となります。また、文章が長くなることによつてわからなくなるとも多いと思いますが、文章が長くなつてもこの構造は同じです。例えば、テストの問題にもある"大学教育は次のような役割を持つ、という"を作つて説明せよと、"大学教育は次のような役割を持つ、という" (線・線・丸) となり、"大学教育(持つ、という) 次のような役割" (線・丸・線) の形となります。どの文章になつても、線・線・丸 → 線・丸・線の形は変わりません。また、文章の中には[]が付くものもあります。例えば、"私は剣道部の学生です"という文章があるとすると、[]の部分は"剣道部の"と書いておくと、これは学生の修飾語とほろの"学生"のすぐ後ろに並べ換えることになり、つまり、"私は[剣道部の]学生(です)" → "私(です)学生[剣道部の]" → "I am student th eken do club." となります。

この英語の文章もこのように線・丸・線を使えば構造がよくなると思います。ですの、この講義を受けてこの構造を知ることでできよかつた。この講義で学んだことはとてもわかりやすく、すこく為になるので、これから、語順訳訳、フレーズ訳、英日視写プリント、並べ換え英作文テスト、リズムよみグループテストなど、継続してほしと思ひます。

法1年 女子

学力のある学生は自分の学んだことをこのようにきつんと文章化できる。
 英語力の増強に日本語学力あり。こうして学んだものは消えて無くなるない。

最近に映像をみて、英語のリズミを覚えさせ、それが先
 ら、先生がまずい、このお手本をしてくれ、つぎは、この反復
 生の後につづいて、リスニングの練習をしよう、この反復
 練習を毎週一回必ずや、このリスニングを覚えて
 いまました。私は特に東語の音読が苦手で、高校の時も
 全然おろそかにして、今になって、この反復練習のおかげで、
 復習のおかげで、すいぶん成長できたことに感じました。
 それから、このテストを受ける前も全く勉強もしていな
 かった。この反復練習のおかげで、授業で受けたこと
 とが頭の中に記憶として残っていたので、この先生のやり方
 と本質に合ったと思ったりした。こんな英語が苦手で、
 身をもっと実感できたと思ったりする。これはどんなこと
 に対して、復習が大変だと思ったりすることを感じました。
 の大学に入学して、この英語を学んでいながら、今後は
 だ気づいていながら、今後は、今後は、今後は、今後は、
 法で自ら進んで勉強していきたくです。これを積み重ね
 ることによって、普通に英語を話すのも、そう遠くはな
 いと感じました。また、英語が苦手で、苦手ながらも、
 できていくと、いいと、あきらめずに、反復して克服してい

リズムよみ練習で成長を実感し、
 その体験は他の学習にも波及する。

ビジネス1年 女子

私は、リズムの読みが一着楽しく授業ができました。と
 も、ちと協力しあいながら授業をしていくことで、難し
 くなった部分も、たいてい読みながら、所があたりしただけ
 友人とやっているとお互いに教えあったりして、1枚の
 リズムの読み方のポイントを経験することができ、先で初
 めて達成感を感じたりと、とてもよかったです。そして、
 又、自分一人で読むときは、まじめにやったりして、少し
 とまどいてしまったり、所が、と、と、と、と、と、と、と、
 加自分の苦手を、所が、と、と、と、と、と、と、と、
 し、自分の命を、所が、と、と、と、と、と、と、と、
 人、も、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
 私、は、思、い、ま、す、し、三、三、三、三、三、三、三、
 読み、は、し、ら、に、面白、い、味、が、分、か、て、楽、し、く、な、り、
 と、た、と、思、っ、て、ま、す、し、一、年、間、を、通、し、て、二、の、英、語、の、教、
 業、は、ま、る、こ、う、簡、単、で、良、い、勉、強、で、英、語、は、ま、と、ま、と、好、ま、
 たい、た、ん、で、お、か、し、ら、に、好、ま、に、な、る、く、ら、い、自、白、い、教、
 材、が、あ、り、ま、す、二、年、生、に、な、っ、て、も、英、語、の、教、業、を、楽、し、
 が、あ、り、ま、す、一、年、間、英、語、の、教、業、を、教、え、て、く、だ、さ、
 り、あ、り、ま、す、と、思、い、ま、す、と、思、い、ま、す、と、思、い、ま、す、

元々英語が好きだったから、
 英語が楽しくなっている。

ビジネス1年 女子